

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成 24年 6月 16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779500640		
法人名	株式会社 ティー・エッチ・アイ		
事業所名	グループホーム 白馬		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府阪南市箱の浦452番地の3		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年7月11日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル
所在地	大阪府吹田市千里丘下20-16
訪問調査日	2012年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同一敷地内に有床診療所があり、日常の内科的な健康管理はもちろん、整形外科・眼科や神経内科などの持病に対しても対応している。とりわけ高齢者はいくつもの生活習慣病を併せ持っていることが多く、いつもの顔なじみの医師や看護師に健康管理上の助言を受けている。脱水や肺炎など一時的に安静・入院加療が必要な場合も、隣接している診療所に入院できることで、環境の変化による認知症進行を防ぐことができる。また介護職員の離職が少なく、顔なじみのスタッフがいることにより、入居者・家族に安心感をもってもらっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは閑静な住宅地の中にあり、近隣には樹木も多く、自然環境に恵まれている。隣接した有床診療所との連携で日夜共に健康管理、急変時にも即対応できることで家族からの安心を得ている。職員は理念を理解し、入居者との日々の関わりの中で常に意識して実践に生かせる様に努力している。2ユニットの職員を固定せず、どちらのユニットの入居者の状態の把握や対応ができるようローテーションを組んでいる。管理者は職員より信頼を得ており、良いチームワークがなされている。中庭に屋根を付ける工事中であったが、これも冬場でもよく日の当たる中庭に洗濯物が干せる様という職員からの意見から行われており、入居者の日常生活においても職員の意見の反映がみられる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	周辺症状に対してのケアはもちろん、加齢と共に高まる医療ニーズにも対応し、住み慣れた地域・ホームでの生活が少しでも維持されることを理念で謳っている	理念を寮母室に貼り出し常に見ることで意識している。高まる医療ニーズに対応し、入居者一人ひとりのその人らしさを大切にしながらホームでの生活が維持できる様、ケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームは地元自治会に加入すると共に、校区の「地域ケア会議」に参加している。また地域の民生委員や自治会長にはホームでの会議に参加いただいている	地域ケア会議に参加し、交流を行っている。隣接した診療所に来る人や、近隣の人は、挨拶を交わすなど日常的に交流がある。夏は玄関を開放し訪問者や、見学者が気軽に行えるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の依頼による認知症サポーター養成講座へのスタッフ派遣や、隣接している診療所から在宅での認知症介護について、家族の相談に応じている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの運営状況の報告をもとに質疑応答を行なう。ホーム内のヒヤリハットと事象などについて、活発な意見が出され、日々の業務にいかしている	会議には民生委員、隣接した診療所から看護師が参加している。質疑応答を交え、多くの意見が出されている。時には、指摘を受ける事もあり、意見を活かし、サービスの向上を目指している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員事業や認定調査等担当者はしばしばホームを訪ねられ日常的に助言を受けている。また運営推進会議の事象報告においても、助言を受けている	月に一度、市からの介護相談員2名の訪問時や、認定調査員にホームの実情を伝え、相談や、アドバイスをもらいケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を理解し、拘束は管理者が最終的に決断し、家族の了解を画面で得ることとしている。玄関の施錠は漫然とはせず、状況によって判断している	身体拘束についての弊害を理解し、職員が、目配り、気配りでセンサーに頼らず入居者の行動にいち早く対応しようと取り組んでいる。また、玄関の扉も季節によっては開放している。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフが精神的に追い込まれないように早くから複数の夜勤者を配している。法律については学習の機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に両制度を利用されていた方がおられ、ケースを通じて制度の趣旨を職員会議で共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬や制度改正の度、重要事項説明書などの変更が生じたため、文書での説明はもちろん、電話来所での相談に応じ、ご家族の不安疑問の解消に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員は毎月6名の入所者と話し合われ聞かれたことはスタッフに伝えられる他、投書箱や外部への苦情申立など、入所時に説明を行っている	玄関の来客スリッパ入れの上に投書箱を設置している。ここ2年は投書はない。面会者も多く、面会時に意見やご要望があれば言われる。意見、ご要望は、職員会議などで話し合い改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の前にスタッフから議題や提案を受付、自発的な意見の集約に努めている	寮母室に箱を設置している。職員会議の前に議題や意見を集めている。職員は、7～8年の勤務者が多く、自発的に意見や、提案などがある。管理者は、提案に上がっているものに素早い対応を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	重度化に伴い身体的な介護が増えている。クリニック職員による入浴介助・受診時送迎の支援を受けて職員負担が軽減し、有給休暇も消化しやすくなっている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は介護職員が外部研修に行く機会が少なく、十分な研修ができなかった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	計画作成担当者が地域の事業者との窓口になり、地域の勉強会などに参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望の相談があったから入居までに面接を行い、本人・家族からの情報収集を行い、スタッフで共有し、入居後のケアにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接により家族本人のニーズを把握し、入居後も面会など精神的な支援の関係を共に作るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接で本人のニーズを見極め、受診や食事など個々に応じたサービスを検討し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、野菜の皮向きや食器ふきなど、能力によって「役割」を分担している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣服の入れ替えや、外出外泊、面会など家族の精神的支援は必要であるため、役割を果たしてもらっている		
20	8	○馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型となりホーム近辺の方の入所が多くなった。ご近所や担当されていたケアマネの方に引き続き面会や精神的な支援をいただくようお願いしている	隣接した診療所に通っている友人の訪問が、しばしばある。以前から行きつけの美容室や、かかりつけの婦人科に通う入居者もいる。また、以前担当だったケアマネにも引き続き面会をお願いしたり、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットの中は入居者の間は必ずしも良好な関係ばかりではない。貼り絵や家事等一緒に取り組むものを通して、利用者同士の関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化などで退去になられた方も、介護やサービスの利用について相談に来られれば支援し、また再入所の事例もある		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の家族からの聞き取りを行うと共に、日常のやりとりの中から、本人の思いや希望を汲み取っている	本人がしたい事、遣りたい事のサポートを行っている。家族からの情報や協力を得る事で、継続している事も多い。観葉植物を置きたいという入居者の希望で、家族に持って来てもらい、水やりなどは、職員が手伝いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接ではご家族や本人から生活歴や直前までの経過を聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞き取っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者には担当者を決め、家族との窓口になっている。家族からの要望意見は管理者・計画作成担当者に伝えられ、介護計画に反映するようにしている	ケース会議を行い、事例を出し合い話し合われている。本人、家族からの意見や要望は担当者が窓口となり聞き、ケア計画作成に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は詳しい記述に努め、とりわけ夜間（夜勤帯）は1時間おきに状態を記録し、翌日のケアや介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	低栄養状態や透析食など食事配慮のいる方や、単身者等買物困難な方が日用品の買物を要する時、本人の状態にあったものを揃えられるように取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民などの支援があつて入居された方については、引き続き精神的な支援をお願いしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的にはホームの定めた協力医療機関で受診しているが、入所前から通院されていた婦人科・精神科・歯科については本人の希望するところに行かされている	隣接した診療所をかかりつけにする事で家族からの安心を得ている。また希望で、ホーム往診医でなく、希望の歯科に通う入居者や、以前からのかかりつけの婦人科、精神科に通院している入居者もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎日隣接している診療所の看護師に気になることを報告し、医療以外に栄養や介護のことまで、判断に困ることの助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接している有床診療所への入院が多いが、日常的に訪問診療などで主治医も個々の入所者のことをよく把握され、早期に退院できるように相談をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しホームや併設の診療所での対応が困難となり、他施設での対応となることは家族会あるいは個別に伝え、近隣の療養型病院・施設へ紹介している	重度化や終末期については、隣接診療所の協力、支援を得て体制を整えている。段階に応じて本人、家族に現状の確認をし、説明、相談を行っている。職員は、一度、看取りを経験し、今後のチームでの支援に繋がるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発熱に対しては対応をマニュアル化している その他鼻出血・嘔吐などの突発的な症状の際は、隣接している有床診療所の当直医・看護師の指示を受ける		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災時は隣接している診療所の駐車場を避難場所に定め、避難誘導時の診療所の応援を受けることになっている	年1回隣接した診療所と合同で、避難訓練が行われている。地震、火災時の避難場所のほか、海から近い事もあり、津波を想定しての高台への避難場所も考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や食事介助などの声かけにも注意をし、申し送りを「現場（フロア）」でする際は、名前を直接言わず、イニシャル等を用い、他の入居者にわからないように配慮している	トイレへの声かけの際には、他の入居者に聞こえないよう、配慮している。排泄の確認は隠語を使用している。現場での入居者の申し送りはイニシャルを使用している。新人職員にも、禁止事項を伝え共有している。	室温調整、空気入れ替えの為、不在のお部屋の入口が開いた状態であったり共用トイレの棚に入居者の名前が書いたパットが置かれており、必要な時、必要なだけ、随時、対応をする事で、誇り、プライバシーの保護に繋げていくことに今後、期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や表現が十分にできない方については、声かけをして自分の思いを伝えてもらえるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事・受診以外の日課は自由であるが、何をしたらいいのかわからない方もおられる。個々の能力や体調に応じて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットは毎月行っているが、「いきつけ」の美容院にパーマや毛染めに行かれている方もおられる		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ（皮むきなど）やテーブル拭き、食器拭き等、出来る方には一緒に手伝っていただいている。食事は同じメニューを毎食一緒に摂っている	食材は近隣のスーパーに週に2回配達してもらっている。朝食はパン食の為、手伝いはないが、昼食、夕食は、入居者にできる事の手伝いをしてもらっている。食事の前には体操を行っている。桃の節句には散し寿司、お正月にはおせちを作り、季節を感じてもらえる様に工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や疾患によっては嚥下のしやすい食材、食事量・水分量の調整をして提供している。また食事療法の必要な方には治療食を外注している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい（歯みがき）を必ずしてもらっている。また毎週歯科医・歯科衛生士による口腔ケアを受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意のある人には日中3時間ごとの声かけ・トイレ誘導を、失禁ある人にはおむつを使用しても夜間のみ、ナプキンの使用など漫然としないように努めている	排泄パターンに合わせ、個別に対応を行っている。車いすの後ろポケットに排泄表を入れ、排泄チェックを行っている。トイレに行く間隔が開いた入居者にはさり気なく、トイレ誘導の声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘への対応については、併設診療所の指示を受け、水分摂取や緩下剤を用いている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	すべての希望に応じた入浴は行っていない	お風呂は、希望に応じてできていない。一般浴のみ、ホームで行い、機械浴は、隣接診療所で行っている。脱衣室と洗濯室は併用となっている。一人で入浴する人でも、浴室の前で、話しかけるなどして見守りを行っている。	入浴する事を保清の為ととらえず、楽しいひと時と感じてもらえるような工夫、リラックスのできる環境作りを行い、個々の希望に応じた入浴が行えるよう今後の取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離床をすすめる一方、体調や状況に応じて居室のベッドで臥床してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から提供を受けている薬剤情報を各利用者のカルテに綴り、いつでも最新の投薬内容・用量について把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることに応じた役割を持つてもらえるように努め、食事の用意・片付け・洗濯・掃除・レクも本人の状況に応じて準備している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に応じた対応はできていないが、月1回程度は一緒に外出・外食の機会を設けている。またご家族の付添があれば外出は自由であり、服薬の調整をしている	ユニット別に月に一度外食に出かけている。盆、正月には、積極的に家族に電話を入れ、外出の願いをし家族と共に過ごせるよう支援をしている。外出用にリフト車3台、5～6名の入居者に対し職員が4名付き添いができる体制ができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想の強い入居者がいるため、個人での金銭管理はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望があれば応じている。電話の取次ぎは日常的に行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境を保ち、落ち着いた生活をおくっていただいている	平屋建てであり、リビングは天井が高く、天窓からは、光が入り明るい。空気清浄器、加湿器が置かれ、快適に過ごせるよう室温調整が行われている。リビングには入居者の作成した、季節の貼り絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分なスペースはないが、ソファに座り集まって個々に談笑されている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持ち込みは自由で、家族との写真や観葉植物、花鉢など、持ち込まれている	全室個室、ベッド、タンス、テレビが備えつけられている。使い慣れた布団や枕を使用したり、個々の好きな物を置かれ個性の活かされた居室作りができています。	入居者が居室にいない時は、ドアを閉めておくことや、床に置かれたオムツ、パット等を目につきにくい場所へ整理して置く等し、プライバシーに配慮した、落ち着ける居室の工夫に今後、期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差もなく、また洗剤などのある部屋・浴室は施錠して事故を防いでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目						
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の	
					②利用者の3分の2くらいの	
					③利用者の3分の1くらいの	
					④ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある	
					②数日に1回程度ある	
					③たまにある	
					④ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○		①ほぼ全ての家族と	
					②家族の3分の2くらいと	
					③家族の3分の1くらいと	
					④ほとんどできていない	
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように	
					②数日に1回程度	
					③たまに	
					④ほとんどいない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66		職員は生き生きと働いている	○		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68		職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	